

ハクサンクロナガオサムシ

Carabus arboreus hakusanus Nakane
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

県内の分布域は三ノ峰に限られる。生息地が白山国立公園特別保護地区に指定されているため、開発等の恐れはないが、分布域が局限され、登山者の増加による影響も懸念されることから注視が必要である。石川県では準絶滅危惧に指定されている。

種の特徴

体長 19 ~ 24 mm。中型の細長いオサムシで、全体黒色。分布域にはよく似た種であるクロナガオサムシもいるが、本種の方が小型で、鞘翅の隆起鎖線はより明瞭である。詳しい生態は不明。県内では7月と9月に採集記録がある。

分布

クロナガオサムシの亜種で、白山山塊特産。種としては北海道と本州中部以北及び紀伊半島に分布し、各山塊で亜種が設定される。県内では三ノ峰でのみ確認されている。

生息を脅かす要因

生息地は白山国立公園特別保護地区内にあり、保護されている。しかし、登山者による本来生育しない植物の種子等の持ち込みによる環境変化の影響が懸念される。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、井村・水沢 (2013)、石川県環境部自然環境課 (2009)、上野ら (1985)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ハクサンホソヒメクロオサムシ

Carabus harmandi mizunumai Ishikawa
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

決して少なくはないが、分布域が限定されており、また良好なブナ帯という環境も生息条件として重要であり、注視する必要がある。

種の特徴

体長約 20 mm。ホソヒメクロオサムシ白山中心の亜種。別名ニシホソヒメクロオサムシ、ニシアルマンオサムシ。本県は分布の最西部である。全体光沢の鈍い黒色。後翅は無い。上翅の長さは幅の2倍以下。本県では800 ~ 1,000mのブナ帯で記録されており、春に側溝にも落ちている。

分布

本州飛騨山脈以西に分布する。本県では嶺北地方の主に県境一帯のブナ帯に分布する。

生息を脅かす要因

ブナ帯に依存していると考えられるため、森林の開発による環境の改変が危惧される。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、井村・水沢 (2013)、石川 (1991)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
									○		○				○	○	

キベリマルクビゴミムシ

Nebria livida angulata Bänninger
コウチュウ目・オサムシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】絶滅危惧IB類

選定理由

かつては普通種であったが、現在は全国的に絶滅あるいは危惧されている。本県では戦前の記録があるのみ(斎藤, 1993は訂正された)。

種の特徴

体長 15 mm内外。やや扁平で光沢がある。頭部は黒色、前胸はほとんど黄褐色、上翅は黒色で外周は黄褐色、脚は黄褐色。同じ環境にみられるカワチマルクビゴミムシに似るが、前胸全体が黄色い事で区別できる。主に平地の河川敷に生息し、夏季、河原や空き地等でみられる。動作は活発。

分布

北海道~九州に分布し、西日本の太平洋側に中心をおく。

生息を脅かす要因

県内の生息状況ならびに減少要因が判明していない。今後の推移を注視する必要がある、近くランクアップを検討する必要がある。近年は河川敷や空き地は急速に開発が進んでおり、本種には大いに脅威となる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会 (1985)、福井県自然環境保全調査研究会 (1998)、斎藤 (2010)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
					○												